

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

空欄補充・選択・論述・計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴

すべての論述設問に字数制限がなかった。4題のうち、2題がA・B分けであった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 論述	遺伝子	生物	問3 暗条件下では、タンパク質X2が合成されるが、系統Cでは、開始コドン②が失われているので、タンパク質が合成されず、蛍光が観察されない。	標準
II	空欄補充 選択 計算	遺伝	生物	問4 図1の交配結果には、オスが組換えをおこした場合と、メスが組換えをおこした場合の両方が示されていることに注意する。	やや難
III	空欄補充 選択 論述	花芽形成 感覚・神経	生物	問4 現存量の1日あたりの増加量は全品種で同一であり、生育期間を通し一定であるため、種まきから開花までの日数と開花期における現存量が比例する。	やや難
IV	空欄補充 選択 論述	種間関係 物質生産	生物	問6 エネルギー効率に影響する可能性があるものは、「すべて」の中に含まれると考えてよいだろう。	やや難

※ 難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・さまざまな分野から出題されるので、全分野について学習しておこう。
- ・文章読解力を高め、実験問題やデータ考察問題を論理的に解析する能力を養い、論述のポイントなどを見抜く能力を高めよう。
- ・問題の分量が多いので、問題を読んだり論述解答を手早く行うための演習を積んでおこう。
- ・遺伝子、遺伝計算は出題頻度が高い。また、生態、進化と系統分類は両方とも出題される頻度が高い。注意して、学習しておこう。